# 令和7年度　全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

## 税から生まれる無限の力

高取町立高取中学校 3年 村上 蔵ノ助

私の住む奈良県高取町には、日本一の山城と言われる高取城があります。役場で調べてみると、この城を守り、訪れる人が楽しめられるように、石垣の草刈り、整備に五十万円、ハイキングの道の草刈りに三十万円、トイレの整備に六十万円もの税金が一年間で使われているそうです。秋には「高取城まつり」が開かれ、武者行列や太鼓の音で城下町がにぎわいます。春には「おひなさま巡り」が行われ、町の家やお店にたくさんのひな人形が飾られます。毎年の楽しみにしている行事も町の人達の手と税金で守られてきた事が分かりました。税金というと取られる、払わされていると感じる人もいるかもしれません。でも私は寄付する時の気持ちに似ていると思います。これが誰かの役に立つのなら嬉しいという思いです。税金も同じで自分が納めたお金が形を変えて町や人の暮らしを支えていると思います。寄付は相手が目の前に見えたり、目的が明確だけど、税金は見えにくいだけ。だけど、それは確かに誰かのためになっていると思います。

私の祖父は腎臓の病気で人工透析を週三回通院し、何時間も治療をしています。そしてそれはとても高額な医療費ですが、保険制度や税金で負担は大きく減らされています。祖父の命を支えてくれているのは、どこかの誰かの税金であり、感謝しかありません。

日本国憲法には、勤労、教育、納税の三大義務があります。税金を納めることは、国民の大切な役割です。税という字は、「禾（いね）と兌（かえる）」からできているそうです。作物を分けあって助け合う優しい気持ちが根元にあるのです。義務の言葉の中には、この優しさが込められたものだと思います。私は大人になって働くようになった時は、義務ではなく、誰かの支えになると思い、納税していきたいです。

では、税金は誰が決めるのかといえば、政治家です。国会議員や市長など選挙で選ばれた人達が、どこにどれだけお金を使うか決めています。つまり、私達の一票が未来の税金の使い方につながっていくのです。あと三年で私もいよいよ選挙権を持つことができます。今から政治や税金に関心を持つことが社会の一員として納得のいく納税につながるのだと思います。

日本には、海外にほこれる歴史や文化があり、税により後世に引き継がれます。祖父の命をつなぐ医療費、物価の安定や生活の安心、私を大人にしてくれる教育費、全ては税金で支えられています。そして税金は私達の一票で変わります。私達はこれからの未来を変えられます。何年後も日本人としてほこれる文化を守り、わくわくした未来を迎えられるように学び、成長する事が今僕にできる第一歩です。